



*long breath long life*

地域連携情報誌

vol.40  
2023年1月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます



# 呼吸器センター

呼吸器センター センター長  
(兼) 呼吸器内科 主任科部長

にしうま てるあき  
西馬照明

加古川での呼吸器診療に携わり始め、11年目の2023年1月に呼吸器センターを立ち上げることとなりました。当初は医師が2名でしたが、周囲のご理解と支えのもと徐々に増員し医療機器も充実しており、今日では他施設に負けない診療体制を提供できるようになりました。

呼吸器疾患は多彩な疾患の集まりである上に、他の診療科に負けず進歩の著しい分野です。例えば予後が悪いとされる肺癌は、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤の登場により薬物治療が生存率の向上と共にこの数年で劇的に変わり、ロボット支援下技術による手術や、呼吸動体追跡システムを用いた放射線治療など新しい技術も増えています。超音波ガイドシステムを用いた気管支鏡手技が標準化され、検査診断効率も向上しました。また悪性疾患以外でも喘息に対する新規バイオ製剤が次々開発され、間質性肺炎では抗線維化薬が標準治療となりました。感染症領域では結核やインフルエンザだけでなく、COVID-19診療にも重要な役割を果たしてきました。一方、先進的医療だけでなく、超高齢者社会を迎え、肺炎や呼吸不全で重症化する患者さんも多く、終末期治療をどうするかというのも今後の課題です。

我々にとって重要な役割は、一般的な疾患から専門的な治療を要する疾患まで正しく診断し、呼吸器領域への適切な治療を提供することだけでなく、他に影響のある領域への的確なコンサルテーションです。充実した33診療科を有し、密接な横のつながりで総合的な診療を行えることが他にはない当院の強みだと考えています。「呼吸器センター」としてこれまでの実績と今後の展望を広報していくのと同時に、それにふさわしい知識や技術の向上・スタッフの育成に努めていきたいと思えます。大事なことは「任せてよかった」と思っただけのよう東播磨医療圏域での信頼を継続して得ることであり、そのためには診療所や病院の先生方をはじめ地域の皆様との連携が重要です。引き続き、ご指導の程どうぞよろしくお願いいたします。



# 開設にあたり

呼吸器センター 副センター長  
(兼) 呼吸器外科 主任科部長

い わ な が こ う い ち ろ う  
岩永幸一郎

加古川市をはじめとした東播磨地区の中核病院として平成28年7月に加古川中央市民病院が開院となりました。当院はスタッフの豊富な呼吸器内科専門施設であり診断・治療内容が充実しています。

毎週呼吸器グループによる各種カンファレンスによって、患者さんに応じた治療方針を決定しています。また放射線診断・IVR科、放射線治療科、病理診断科とも連携し診療にあたっていきます。最近では肺癌治療を受けられる患者さんも80歳以上の方が増えており、心疾患や糖尿病など複数の既往症をお持ちの方も多くいらっしゃいます。そのような方も総合病院として他の診療科とも連携して肺癌治療が行えるように努めています。

当科は新専門医制度による専門研修連携施設であり、提携元の神戸大学呼吸器外科学講座と連携し人材の交流を行っています。開設当初は専門医1名でスタートしましたが、平成30年度から専攻医が1名加入し2名体制になりました。令和5年度からは3名体制になる予定です。

当科の手術は基本的に全例胸腔鏡を用います。その中で9割以上を占めるのが胸腔鏡から映し出される視野のみで操作を行う完全鏡視下胸腔鏡手術です。創を最小限にした胸腔鏡手術が低侵襲で患者さんの負担が少なく当科での第一選択になっております。早期肺癌・気胸・縦隔腫瘍はもちろんですが、周囲臓器に浸潤がある・リンパ節転移がある肺癌症例も最近では適応となります。胸腔鏡視野のみで安全に出来ないと判断した場合は、手術途中で必要な分開胸を加え直視(肉眼)による操作を行いますが、安全が確保できれば胸腔鏡視野に戻ることが多いです。

平成30年4月からロボット支援下の肺悪性腫瘍切除手術(ダヴィンチ手術)が保険診療の適応となりました。当科では令和3年10月から導入し令和4年12月時点で30症例行っております。ロボット支援下手術も完全鏡視下手術なのですが、手振れのない多関節ロボットアームと3D画像の胸腔鏡を執刀医が完全にコントロールすることでより細やかな操作が可能です。

以上のように今後も当科は根治性と低侵襲を両立しつつ、最新の標準治療を地域の患者さんに提供できるように努めていきます。

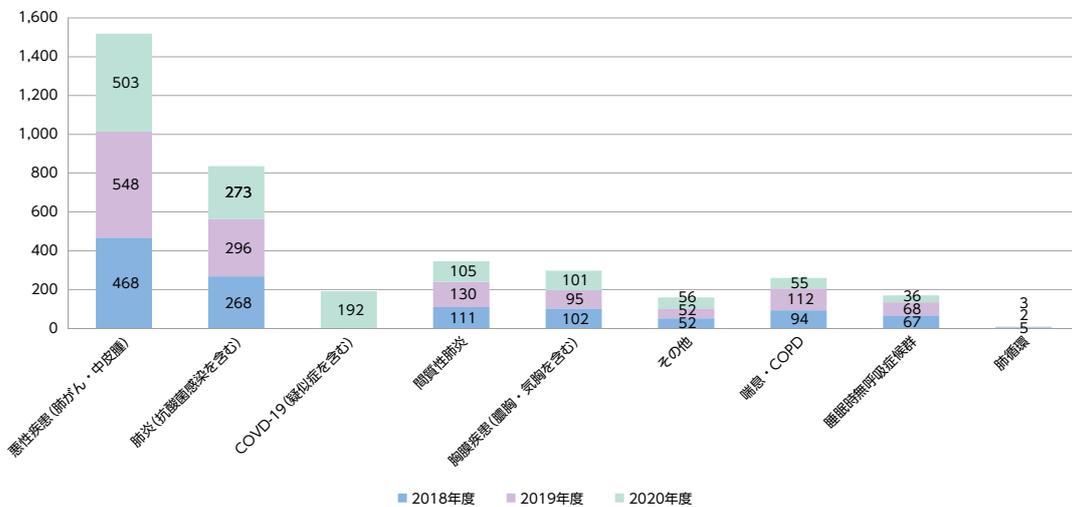


# 呼吸器センター

## ～呼吸器疾患の集学的治療～

当科は肺炎や抗酸菌症などの感染症、COPDや喘息などの閉塞性肺疾患、間質性肺炎、呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群、肺がんなどの悪性疾患、いろいろ幅広く対応しています。すべて当院で治療完結できるのは当院の強みです。悪性疾患では診断・治療方針は呼吸器グループのカンファレンスで決定しています。気管支喘息では耳鼻咽喉科、間質性肺炎ではリウマチ膠原病内科や皮膚科、肺高血圧症では循環器内科など、他にも多くの診療科の協力のもと診療を行っています。逆に呼吸不全や薬剤性肺障害などに対するコンサルトも多く請け負っています。十分な症例数・スタッフ数がそろっており、施設認定としては、日本呼吸器学会認定施設・日本呼吸器内視鏡学会認定施設・日本アレルギー学会教育施設に認定されており、専門医取得の研修も可能です。

当地域は呼吸器専門の施設が少ない地域ですので、可能な限りお困りの患者さんの受け入れを行い、他科や近隣の医療機関とも連携しつつ、地域への啓蒙活動をしていきたいと考えています。



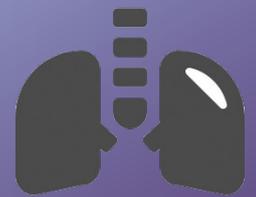
肺腫瘍カンファレンス実施後



ブロンコファイバー施行中



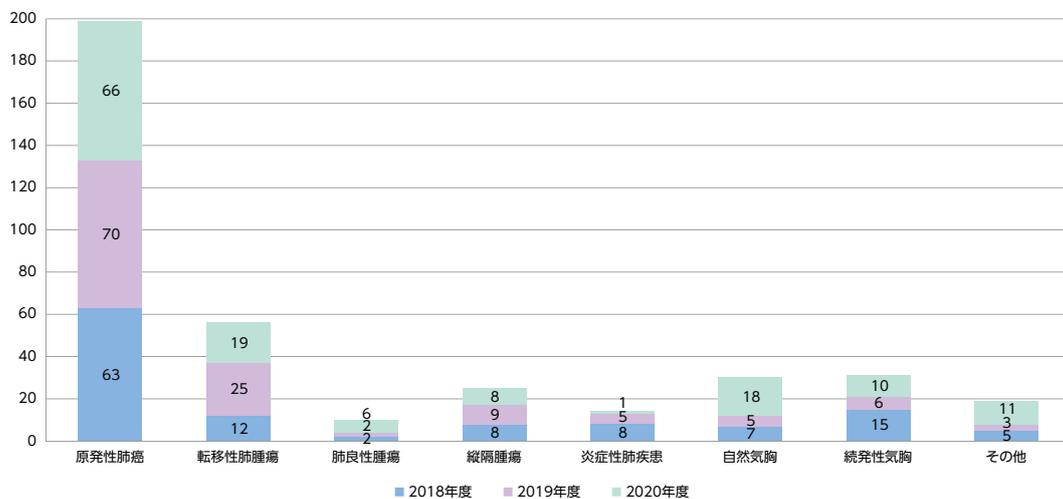
透視室での一景



2016年4月から呼吸器外科が新設され、6年経過しました。開設当初から当院の様々な部署の方々にご協力いただき呼吸器外科手術を行っています。引き続き呼吸器内科や放射線診断・IVR科、放射線治療科を中心としたチームで協力し治療を行います。呼吸器外科の手術で多いのは肺癌・気胸・膿胸などです。いずれも積極的に治療しています。

原疾患の治療もしっかりとした上で、なるべく患者さんの負担が少なく手術後の合併症を減らせるように胸腔鏡手術も積極的に行っております。

さらに2021年10月から手術支援ロボットであるダビンチを用いた肺悪性腫瘍切除手術を導入しています。



放射線診断・IVR科ではCT、MRI、PETなどの多様な検査で日々呼吸器疾患の画像診断を行っています。IVRにおいては咯血の患者さんに対しては24時間体制でゼラチンスポンジ細片を用いた気管支動脈塞栓術（BAE）を行っています。また、放射線治療科と共同で動態追跡システム搭載放射線治療装置の指標として、肺動脈の目的部位に金属マーカーを留置しています。さらにCTガイド下での生検やCT透視を用いたリアルタイム経皮的肺生検を行い病理確定診断への道標を作っています。2021年度の実績はBAE 8件、金属マーカー留置26件、CT下肺生検12件です。このように当科では呼吸器内科、呼吸器外科、放射線治療科と力を合わせ、確定診断及び治療方針の決定など集学的治療を行っています。



## 放射線治療

放射線治療科 主任科医長 橋本 直樹



放射線治療科では呼吸器内科と協力して、肺癌に対する化学放射線治療や動態追跡システムを用いた定位放射線治療を行い、肺癌の根治治療の一部を担っています。

根治治療以外でも、肺癌からの脳転移や骨転移などに対し、少数病変であれば定位放射線治療を用いることで局所制御を狙い、また痛みなどの辛い症状をやわらげるための緩和照射を行っています。肺癌の経過の様々な段階で放射線治療が適応となる可能性があり、2021年に当院で行った放射線治療のうち、4割を超える症例が、肺癌に関連するものでした。今後も肺癌診療に係わる各科と協力して、適切な時期に適切な治療を提供できるよう心がけます。

## 病棟管理

9階西病棟師長 柳沢 咲子



当部署は呼吸器内科・呼吸器外科の診療を行う45床の混合病棟です。

呼吸器疾患の急性期から終末期まで幅広い知識を持った看護師が、呼吸器疾患を持つ患者さんのニーズに沿った看護を提供しています。また、多職種と連携し患者さんが安心してケアを受けていただくよう取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の患者さんの受け入れも、フェーズに応じた病床数を7床から37床確保しており、中等症～軽症患者さんの対応をしています。徹底した感染管理を行い、新型コロナウイルス感染症の患者さんが、安全で安心して入院生活を送って頂けるようチーム一丸となって支援し、地域の新興・再興感染症対応へ貢献していきます。





## 呼吸器疾患看護

呼吸器疾患看護認定看護師 高瀬 瑠美



呼吸器疾患は、安定期と増悪期を繰り返すことが多い疾患です。急性増悪を起こすと予後不良となる傾向にあり、安定した状態を維持する事が重要となります。そのため患者さんや家族と相談しながら、個々にあったセルフマネジメントの方法を一緒に考え、「その人らしく」が発揮できるように支援していきたいと考えています。また私は呼吸器疾患看護認定看護師として、スタッフが患者さんに適切なケアや専門的な知識が提供できるように教育体制を整え、病院・在宅で区切りをつけるのではなく、入院中から在宅を視野に入れた取り組みを行い、シームレスな連携を目指します。

## 化学療法室

がん化学療法看護認定看護師 糟谷 敬子

当院の外来がん薬物療法は、通院治療室（ベッド数21床）で行われており、2021年度は7,662件（呼吸器内科：1,342件）実施しました。スタッフはがん化学療法看護認定看護師を含む10名の看護師とがん専門の資格を有する薬剤師2名が配置されており、連携を図りながらタイムリーな副作用マネジメントを行うことができます。また院内にはがん病態栄養専門管理栄養士も在籍しており、患者さんのご希望時には、点滴を受けながらの栄養相談も実施しています。肺がんの薬物療法は近年、さまざまな種類の抗がん薬が使用されており、副作用も多岐にわたります。安全に治療が継続できるよう、引き続きチームで患者サポートを行っていきたくと思っています。



## リハビリテーション室

技師長 長濱 康人



リハビリテーション室では、呼吸器に障害が生じた患者さんに対して、可能な限り機能を回復、維持することによって、自立した日常生活や社会生活を送れるように支援しています。

ICUの重症呼吸不全に対しては医師・看護師と協働して早期離床に取り組んでいます。慢性呼吸不全には、呼吸法や息苦しさを軽減する動作方法の指導や運動療法、在宅酸素療法が必要となった方の評価や使用方法の指導を行っています。肺がんの手術後の方には合併症予防、体力低下が最小限となるよう早期から介入しています。化学療法・放射線療法中の方には体力低下予防、日常生活動作能力が維持できるよう運動や動作練習を行っています。またcovid-19には高齢患者を中心に隔離期間中から介入し、心身機能維持に努めています。

## 臨床検査室

副技師長 井上香瑞江

当院の肺機能検査は、肺活量・努力性肺活量をはじめ、精密検査である肺拡散能・機能的残気量・クロージングボリューム、更にモストグラフ（気道抵抗）や呼気NO検査、気道可逆性検査など多岐に及んでいます。件数は年間合わせて2,000件程度です。精密検査は30分程度かかりますが、呼気NOやモストグラフ（気道抵抗）は、安静呼吸をするだけで、時間も短く負担が少ない検査です。また、気道抵抗の結果はその程度が色で示され、患者さんにもわかりやすくなっています。肺機能検査室は、新型コロナ感染症流行下であっても、高性能のHEPAフィルターを設置し、技師はフルPPIで対応しており、安心して検査を受けて頂ける環境です。



## 地域連携セミナー第2弾を開催します。

例年5月に開催させていただいておりました「地域連携会議」は、地域の医療・介護福祉職の方々に直接お会いし、連携を深めさせていただくことができる、当院にとって極めて重要なイベントと位置付けておりました。コロナ禍においてはその代替となる情報発信の場として、昨年11月17日(木)に「地域連携セミナー」を実施し、当院の最新の治療状況についてご説明させていただきました。

今年度は、第2弾として、症例報告をもとに、当院から転院、在宅での療養へと治療を引き継いでいくプロセスを説明し、今後の連携を深める機会となるよう、講演テーマを準備しております。次回も一部来場者も招待し、ハイブリッド形式での開催を予定しております。セミナーの詳細については別途ご連絡します。



## ホームページリニューアルのお知らせ

昨年12月21日より加古川中央市民病院ホームページをリニューアルいたしました。それに伴いインターネット予約へのアクセス方法が変更となっておりますので、ご連絡いたします。下記にてインターネット予約にリンクしているボタンの箇所を示しておりますので、ご確認ください。

### 加古川中央市民病院 ホームページトップ(新)



●医療機関向けネット予約のボタンをクリックして、インターネット予約へお進みください。

